

01

木と出会い、触れる

4カ月児健診でのファーストマイスプーンプレゼント、こども園や小中学校で行う木育講座など、子どもたちはさまざまな形で木や森に触れ、学んでいます。



▲焼きペンでスプーンに子どもの名前を書く

ファーストマイスプーン事業

わが子が持つ初めてのスプーンは恵那の木で

本年度から、毎月開催している4カ月児健診で、市内産の木で作ったファーストマイスプーンをプレゼントしています。スプーンは、えーな木育クラブがリョウブやクリの木などを使い、一本ずつ手作りしたもの。好きなものを選び、イラストや子どもの名前などを焼きペンで書くことができます。木のスプーンの温もりを感じて、子どもたちが健やかに育つことを応援します。



スプーンが
できる
まで

地域と共に学び、つながる

市内こども園・小中学校での取り組み

こども園や小中学校では、地域の方などを講師に招き、木育講座や体験を行っています。特に地元の山林や学校林での間伐体験は、多くの学校で実施しており、体験を通じて木の特性や山の役割を学んでいます。

中野方小学校は水源の森実行委員会などと協働し、間伐材を木の駅に出荷して地域通貨「モリ券」を手に入れ、地域に還元する取り組み（木の駅プロジェクト）を行っています。



▲間伐した木材を「木の駅」に搬出（中野方小学校）

県内産・市内産の木材に触れて成長

県内産・市内産木材の広がり

中野児童センター（長島町）には、県の「ぎふの木育教材導入支援事業」を活用した「木育ひろば」があります。木製の床やキッチンなど、県内産の木材に触れながら、来館者が自由に遊ぶことができます。

また、市では、市内産の木材を80%以上使用した新築住宅の建築費を補助するなど、森林資源の循環利用を推進しています。



えなの木省エネ住宅建設支援事業▶



▲中野児童センターの木育ひろば



特集

木育

moku

iku

①武並小学校根の上高原間伐体験 ②中野児童センター木育ひろば ③ファーストマイスプーン ④岩村こども園の木育教室（秘密基地作り） ⑤スプーン入れの袋

2111 固 林政課（内線415）、子育て支援課（内線273） 261

「木育」とは、子どもをはじめとするすべての人が「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組みのことです。

この考えは、北海道庁が主導し、平成16（2004）年に発足した『木育』プロジェクトによって提案されたものです。子どもの頃から木を身近に使っていくことで、人と、木や森との関わりについて、主体的に考えられる豊かな心を育むことを目的としています。

市では、「えなの森林活かして守って次世代に」を理念に、平成19（2007）年「えなの森林づくり基本計画」を策定。昨年度に見直しを行い、木育に関する内容を定めました。また、市森林環境教育推進協議会（えーな木育クラブ）を設立し、ファーストマイスプーン作りやこども園を対象とした木育教室を開催しています。

市内の森林面積は、総面積の約77%を占めます。森林は、循環型資源としての木材を生産する場で、災害から暮らしを守るなど、市民のかけがえのない共有財産といえます。恵那の森林を、将来にわたって持続的に活かし、守り続けられる人材を育成していくことが、市が目指す木育の理念です。

子どもが初めて、自分でスプーンを持つときに使ってもらいたくて「ファーストマイスプーン」と名付けました。本当は、スプーンの成形から保護者に行ってもらいたいのですが、それだと時間がかかってとても大変。そこで、私たちがスプーンを作るところまでは行い、保護者が焼きペンで絵付けや名入れをして、わが子への思いを込めてもらうことに。主任児童委員による託児の協力も得て、実施しています。また、持ち歩けるように、スプーンを入れる袋も考案し、会員が一つずつ手作りしています。

このスプーンを使って、子どもたちが健やかに成長し、恵那の森のことについて少しも興味を持ってもらえたらうれしいです。



▲昨年7月、えなえーるで行ったスプーン作りモニター。試作や検討を重ね、今年度から事業を開始

木育への思いや、今後の目標などを教えてください。

小椋さん
まずは森に足を踏み入れ、五感で自然の良さや厳しさを感じてください。次に、生命の多様性を発見してほしい。そうする中で、自分と森の関係を深めていってください。これからの、子どもから大人まで、市民が主役となる木育活動を支援し、いずれは森の学校を立ち上げられたら、と思っています。

山本さん
自然の不思議さや多様性に気付き、豊かな感性を築くきっかけづくりができればうれしい。自然を愛する人が森林浴をしながら散策し、時には、親子や恋人などの明るい声が響いてくるような森を目指し、活動を続けたいです。

大嶋さん
木育は、食育と同じく大地でつながっています。美しい水や空、おいしい空気、微生物がたくさん住む大地、そんな故郷を次世代に手渡したい。生きる力や遊ぶ力をつけてほしいと願いながら、若い会員も活動しています。ぜひ、皆さんも一緒に活動しませんか。

02

えーな木育クラブ



会員募集中
市ウェブサイト えーな木育クラブのページ

木工家や森林インストラクター、子育て中の保護者など30人の会員で構成される「えーな木育クラブ」。設立経緯や活動内容など、クラブの代表に話を聞きました。



副会長
山本喜美江さん
(武並町)
森林インストラクターや自然観察指導員、市民講座の講師などで活動中

会長
小椋正明さん
(三郷町)
県里山インストラクター。木工家として、公共施設の家具なども手掛ける

会計
大嶋直子さん
(岩村町)
ぎふ木育サポーター、シェアリングネイチャーゲーム協会などで活躍

03

もっと木に触れたい!

市では、子どもから大人まで、たくさんの方に木の魅力や森の役割を知ってもらうために、さまざまな講座や体験を企画しています。ぜひ参加ください。

◆マيسプーン教室

- 木工家と一緒に恵那の木で作る
- 世界に一つだけ、オリジナルのスプーンを作りませんか。
- とき 7月24日(日)午前10時～正午(受付午前9時半)
 - ところ イワクラ公園(山岡町)
 - 対象 小学校5年生以上か親子
 - 定員 10組(先着順)
 - 料金 500円(保険料を含む)
 - 持ち物 汚れてもよい服装
 - 申し込み方法 本文に名前、年齢、連絡先を入力し、電子メールで申し込む。
 - 申込期限 7月15日(金)

◆シャワークライミング

- 森林浴しながらじゃぶじゃぶ歩く
- 小滝という小さな滝がある渓谷を歩きます。
- とき 7月30日(土)午前10時～正午(受付午前9時半)
 - 集合場所 あんじやないの家(三郷町)
 - 対象 小学校3年生以上の親子
 - 定員 10組(先着順)
 - 料金 500円(保険料を含む)
 - 持ち物 着替え、タオル、水筒、ひもで締められる靴、内部に衝撃吸収ライナーが付いたヘルメット
 - 申し込み方法 本文に名前、年齢、連絡先を入力し、電子メールで申し込む。
 - 申込期限 7月22日(金)

☎・問 えーな木育クラブ ✉ ena-mokuiku@gmail.com
問 林政課(内線415)

えーな木育クラブは、どのような経緯で設立しましたか?

小椋正明さん
市森林環境教育推進協議会、通称「えーな木育クラブ」(以下「クラブ」)は、森林環境教育、つまり木育に関する活動を行うことで、市民が地域の森林環境を理解し、愛着を持つことを目的に、昨年5月に設立されました。

現在、さまざまな職業や経歴を持つ30人の会員が活動しています。会員になるための条件はなく、目的に賛同していただける方なら誰でも参加することが出来ます。

この町では、どこにいても森や山が見えます。その森が持つ寛容さや楽しさ、厳しさ、畏敬の念などを市民に伝えたい。そして、それぞれのスキルを会員同士で共有し、活動に生かしていきたいです。

主にどのような活動を行っていますか?

山本喜美江さん
昨年度は、岩村こども園と武並こども園で木育教室を開催しました。会員が作った木

製ブランコや五感を使った自然体験、木や竹での秘密基地作りなどで遊びました。子どもたちが喜んでくれてうれしかったです。保護者やこども園の先生からも、貴重な体験ができたと好評でした。

今年度も引き続き、市民が参加できるイベントの開催、4カ月児健診でプレゼントするスプーン作りにも取り組んでいます。

ファーストマイスプーンはどのような経緯で始まりましたか?

大嶋直子さん
市が出生のお祝い品を見直すという話を聞き、市内産の木材を使ったスプーンはどうかという提案をしました。すると、林政課や子育て支援課、健康推進課、企画課と一緒に、実現に向けて動いてくれました。



▲武並こども園で開催した木育教室